

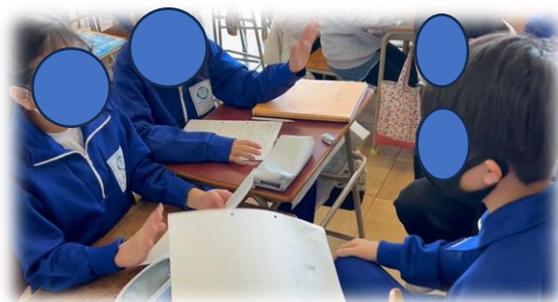
# 令和6年度 教育研究所 班別研究 「英語教育推進プロジェクトチーム」

## I 研究テーマ

主体的に英語でやり取りをすることができる児童生徒の育成  
～Small Talk や ICT 等の活用を通して～

## II 研究の目的

主体的に英語でやり取りができる児童生徒を育成するために、「Small Talk」や「ICT」等の視点から効果的な指導方法等を蓄積し、共有する。



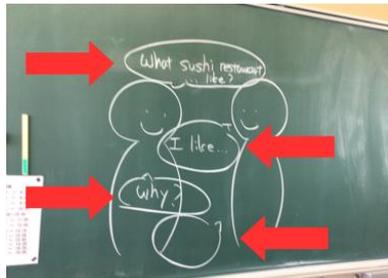
### Ⅲ 研究内容

#### 1 「A 教諭の実践」

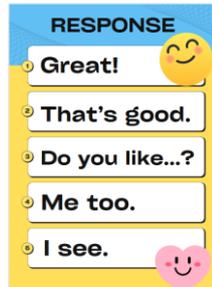
##### (1) 実践内容

A 教諭は、「Small Talk を生かしてやり取りを1分間続ける工夫」を推進するため、次の①～⑤の実践を行った。

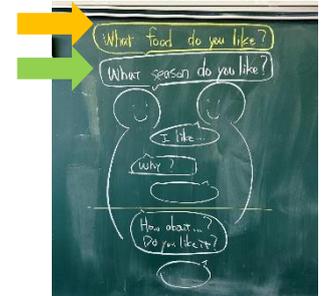
①「やり取りの流れ」を板書 ②「リアクションの仕方」を指導 ③「複数の話題」で会話



会話をしている流れを板書することで、視覚的な支援を行った

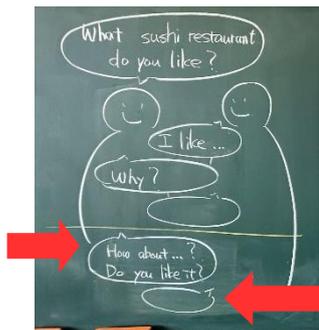


相手の話に対してリアクションを促すシートを活用



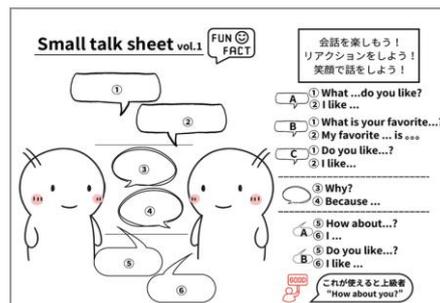
1つ目の話題が終わったら次の話題に移るように指導

##### ④「追質問」をさせる



How about...?を使った「別の提案」をする指導

##### ⑤「Small Talk Sheet」の活用



やり取り用のワークシートを活用し、話す手順を確認できるようにする。



##### (2) 成果と課題

###### 成果

- Small Talk の際に、1分間話し続けることができる児童の数が増えた。
- 「授業が始まれば英語を話す」という雰囲気を作ることができた。
- 繰り返し、つなぎの言葉を指導することで普段の授業内でも「How about～?」（実践④）を話す児童が増えた。

###### 課題

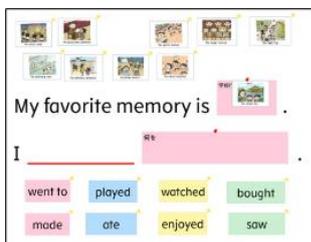
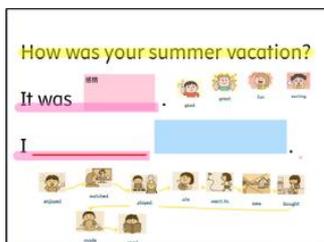
- 会話が続かないペアには個別支援が必要となるが、支援の回数が増えると、日本語が多くなってしまいうこともあった。
- Small Talk は、「英語で話したい」という楽しい雰囲気を作るために「児童にとって興味のあるテーマ設定」が重要である。「英語で話さなければならない」という強制した雰囲気だと悪循環となってしまう。

## 2 「B 教諭の実践」

### (1) 実践内容

B 教諭は、ICT を活用して、次の①～③の実践を行った。

#### ①「追究する段階」における単語カードの並び替えアクティビティ



- 聞き取った内容を、語順を意識しながら文にできるようにする
- 聞き取った内容に対して、適切な英単語を選択できるようにする

#### ②やり取りを意識したパフォーマンステストの工夫



スピーチ後にやり取りをする様子

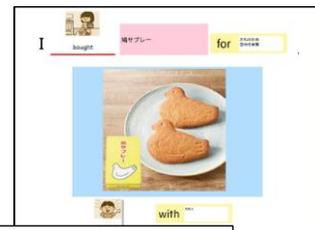
発表者の氏名	
聞き手の質問は何か?	
• 何のゲームが好き? • 好きな色は? • お気に入りの食べ物は? • お気に入りの動物は? など	
聞き手が質問した内容は何か?	
「watched」を間違えて、「went to」と言い間違えてしまったから、間違えるかもしれないから「watched」だけとメモは、よくできたと認める。	

発表者のスピーチが終わった後に、児童同士でやり取りをする時間を設け、終了後にどのような質問があったかをワークシートに書き留める。

#### ③やり取りを意識したパフォーマンステストの工夫 2



スピーチ後にやり取りをする様子



児童が作った発表用シート

発表用シートをイラスト・英語・日本語のメモなどで作り、発表が終わったあとに英語教師や ALT と一対一のやり取りをする。

### (2) 成果と課題

#### 成果

- 児童がスピーチを行った際、その後質問をしなくてはならないという意識付けをすることや、質問の仕方のバリエーションを増やすことができた。
- スピーチ後に即興のやり取りを行うことにより、質問したい内容を自分で考えて質問したり、答えたりする児童が増えた。

#### 課題

- 相手とやり取りをするために、必要な語彙や表現をきちんと定着させておく必要がある。語彙や表現を習得させる活動と、それらを用いた言語活動、両方において十分な時間の確保が必要である。

### 3 「C 教諭の実践」

#### (1) 実践内容

C 教諭は、写真やイラスト等を効果的に使ったコミュニケーション活動の工夫について、次の4つの実践を行った。

##### ①写真やイラストで文法を導入

写真やイラストを使ったやり取り **①導入**

ユニバーサルデザインについて学習する単元の導入として、第二中学校や公共の施設にはどのようなユニバーサルデザインがあるかについて、写真を見ながら生徒同士でやり取りを行った。

##### ②イラストを使った Small Talk

写真やイラストを使ったやり取り **②Small Talk**

「日常生活について」のやり取り

「日常生活について」のやり取り

##### ③新出言語材料を使ったやり取り

写真やイラストを使ったやり取り **③新出言語材料**

人気のある芸能人等の写真を使いながら、生徒同士で問題を出し合う活動

##### ④パフォーマンステスト

生徒が作成したユニバーサルデザインに関するスライド

#### (2) 成果と課題

##### 成果

- 授業冒頭の Small Talk や一単位時間を通じた活動において、新出言語材料や既習事項を使ったやり取りの時間を計画的に取り入れたことで、ALT や英語教員からの質問に適切に応答できる生徒が増えた。
- 写真やイラストを使ったコミュニケーションを継続して取り入れたことで、低位の生徒もあまり抵抗を感じずに英語で会話をすることができた。

##### 課題

- 即興的な「やり取り」をできるようにさせるためには、帯活動などで毎時間やり取りを行うなどの常時指導が不可欠である。
- コミュニケーションの中で、単語のみで応答する生徒もいる等、その質には大きな差があった。今後は、やり取りの場面で模範となる例を教師が示したり、よくできている生徒に発表させたりすることで、理想的なやり取りの姿を共有し、全体の質を高めていく必要がある。

#### IV 英語教育推進プロジェクトチームの研究の成果と課題

##### 1 研究の成果

- 児童生徒が主体的に「やり取り」を行うための手法について、「Small Talk」「ロイロノートのカード並び替え」「写真やイラストを用いた活動」などについて、実践を多く蓄積することができた。
- 1年間で継続して、意識的に「やり取り」の実践を取り入れることで、主体的に英語でやり取りをすることができる児童生徒が多く見られた。
- 指導方法等は英語教育推進HPにアップし、市内で共有を行った。これを通じて、研究員3名が市内の英語教育における推進リーダーとなり、他校の英語主任と連携して市の英語教育の推進を強化する組織づくりを行うことができた。



研究員作成の「やり取り」に関する実践レポートの一部



英語教育推進HP内には、令和7年3月時点で、35事例をアップ

##### 2 研究の課題

- 「即興的なやり取り」をできるようにさせるためには、常時指導が不可欠である。そのためには、「帯活動」などを活用し、同じ教材等を用いて、毎授業時間に継続してやり取りを行う必要がある。
- ICTやSmall Talkワークシートを用いないと、スムーズにコミュニケーションができない児童生徒が見られた。継続してやり取りを行う中で、教材の使用頻度を減らし、教材なしでやり取りを行う時間を意図的に増やす必要がある。